

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	環境政策課長 小池 誠	電話番号	0852-22-5345
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	穴道湖・中海水環境保全・再生・賢明利用推進事業		
目的	(1) 対象	県民、民間団体等	
	(2) 意図	ラムサール条約湿地に登録された穴道湖・中海の「環境保全」と「賢明利用（ワイズユース）」の取り組みを一層推進し、世界に認められた両湖の豊かな自然環境を次世代に継承する。	
事業概要	ラムサール条約湿地である穴道湖・中海の水環境保全・再生・賢明利用の推進のため、島根・鳥取両県連携により普及啓発活動や栄養塩循環システム自立支援事業を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	シンポジウムの参加者数	目標値	400.0	400.0	400.0	400.0	人
			取組目標値					
	式・定義	シンポジウムの参加者数	実績値	1,500.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
			取組目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	9,606	5,470
うち一般財源 (千円)	7,106	5,470

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> ラムサール条約湿地の子どもたち同士の交流会を実施。また、鳥取県と合同でラムサール条約登録10周年記念シンポジウム、フェアを開催し、地域住民を対象に普及啓発を行った。登録10周年の節目の年でもあり、多くの住民に参加していただけた。 栄養塩循環システム自立支援事業について、2つの団体が事業に取り組んでいる。 住民・団体等による環境保全、賢明利用の取り組み（穴道湖・中海の恵みによる料理講習、スジアオノリ養殖、湖岸清掃等）も出てきている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> 11月に島根・鳥取両県で、テーマを共有するラムサールシンポジウム、フェアを開催することにより、両県連携がますます強化されてきた。 栄養塩循環システムモデルの構築に向け課題の整理、検討を進め、システムの自立を支援する補助事業から、現在次のステップに移行し、2年を経過した。その間、海藻肥料の製造・販売を行う企業が創業するなど成果が見られた。
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 賢明利用にかかる活動への住民の参加等は、まだ広がりが少ない。 栄養塩循環システムモデルの取組は徐々に進められているが、海藻刈り取り、肥料製造にかかるコスト削減が難しい。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 賢明利用の内容は多岐にわたるので、各団体等の活動が限定されている。 栄養塩の確保は、海藻以外に安価なものがあり、肥料製造にかかるコスト削減が進み、他の肥料等とある程度の競争が出来ないと、利用者の積極的な活用につながらない。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民意識を盛り上げていくためには、各活動団体と連携するなど、地道に普及啓発活動を継続していく必要がある。 栄養塩循環システム自立支援については、経営ベースにのせるためのハードルは高い。少しずつではあるが参画者の意識も変わりつつあり、また、海藻肥料の利用者も増えつつあり、海藻肥料で作った農作物に付加価値をつけて販売するなど、事業者等と連携しながら利用促進を図っていく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> 平成27年11月に、穴道湖、中海がラムサール条約湿地に登録されてから10年になり、記念シンポジウムや記念フェアを実施したが、これを契機に、さらに水質や生態系などの湖沼環境の保全についての普及啓発を実施し、住民意識の醸成を進め、さらなる賢明利用の推進を図る。 平成28年8月にはラムサールシンポジウム2016（全国シンポジウム）を鳥取県等とともに開催し、専門家も交えてさらなる賢明利用のアイディアを取り込み、発展させていく。 栄養塩循環システム自立支援については、海藻肥料の利用者を増やしていくなど、今後も課題解決に向け事業者等と連携しながらシステムが持続できるよう道筋をつけていく。

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--